

## 1. 略歴

1991年3月	東京大学文学部第四類心理学専修課程 卒業
1991年4月	東京大学大学院人文科学研究科心理学修士課程 進学
1993年3月	東京大学大学院人文科学研究科心理学修士課程 修了
1993年4月	東京大学大学院人文科学研究科心理学博士課程 進学
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科心理学博士課程 修了 博士(心理学)取得
1996年4月	岡崎国立共同研究機構生理学研究所 研究員(COEポスドク)
1997年4月	岡崎国立共同研究機構生理学研究所 研究員(日本学術振興会特別研究員PD)
1997年9月	米国ハーバード大学心理学部視覚科学研究所 研究員(日本学術振興会特別研究員PD)
1999年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 社員
2000年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 研究主任
2004年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員
2005年4月	東京大学大学院総合文化研究科 助教授
2007年4月	東京大学大学院総合文化研究科 准教授
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授
2021年4月	東京大学文学部 行動文化学科長(～2022年3月)

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

知覚心理学、認知神経科学

### b 研究課題

知覚や行動に伴う心的時間の脳内機構とその操作。周辺視野での事物の定位に動的信号がおよぼす影響に関する視覚心理学的研究。AIの導入による総合的錯視研究の新展開。

### c 概要と自己評価

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う研究活動の制限下にあつて、行動データの採取における不自由が続いたことは否めないが、そうした状況下で上記研究課題の進捗に向けて最大限の努力をした。心的時間の脳内機構については、秒未満のオーダーで微小時間発展する脳内表現を措定し、逆行マスクング事態を用いて脳内表現の時間発展に介入をかけた際の形状知覚について心理物理実験を行い、マスクングのかけ方によって空間的文脈の作用としての傾き対比の量が変化することを発見した。また、周囲に事物が存在することによってそれらに囲まれた事物の同定が困難になるという事態を導入することで、秒未満の知覚時間が変容する様子に関しても心理物理実験にて明らかにした。周辺視野での運動信号の影響については、局所的なサイン波運動によって大域的な回転仮現運動の抑制が生じるという関係を心理物理実験で明らかにしたほか、変形ベクトル場という運動の流れに知覚順応を起こした後は図形形状の縦長・横長の知覚に若干の陰性残効が生じることを確かめた。また、さまざまな環境整備の結果として、上記の研究実績概要のほかにもいくつかの並列的な実験作業を遂行することができた。例えば、両眼視において輝度変調を左右眼に両眼視差をつけて呈示することによって、視差がゼロである場合に比べて、見かけの輝度コントラストが増加するという両眼加算の効果を心理物理実験によって明らかにした。また、視野の盲点に対応する眼内の部位において存在が認められているメラノプシン視物質によって受容されたと考えられる光刺激が、通常視野に呈示された光に対する絶対閾を上げるという関係を、心理物理実験および眼球運動・瞳孔の生体計測実験の組み合わせによって明らかにした。時間知覚研究、錯視研究のいずれに関しても、高インパクトの国際専門誌への掲載などをはじめ、実験室での活動が制限された中での進捗としては調順な研究成果の出力をしており、おおむね調順に進展している。

### d 主要業績

#### (1) 論文

Nakamura, T., Lavrenteva, S. & Murakami, I., 「Four-dot masking in monoptic and dichoptic viewing」, 『Scientific Reports』, 10(1):11120, 1-10 頁, 2020.6

Machara, G. & Murakami, I., 「Perceptual enhancement of suprathreshold luminance modulation in stereoscopic patterns」, 『Journal of Vision』, 20(12):8, 1-11 頁, 2020.11

Nakamura, T. & Murakami, I., 「Common-onset masking terminates the temporal evolution of orientation repulsion」, 『Journal of Vision』, 21(8):5, 1-20 頁, 2021.8

Nakada, H. & Murakami, I., 「Search asymmetry in periodical changes of motion directions」, 『Vision Research』, 195:108025, 1-11 頁, 2022.3

(2) 予稿・会議録

国内会議、仲田穂子・清永深津紀・村上郁也、「運動による位置ずれ錯視により知覚的に歪んだアスペクト比への順応」、日本視覚学会、長津田、2020.1.10

国内会議、Lavrenteva, S.・村上郁也、「クラウドイングが持続時間の知覚に与える影響」、日本視覚学会、長津田、2020.1.11

国内会議、中村友哉・村上郁也、「共通オンセットマスキングによる傾きの同時対比効果の減少」、日本視覚学会、長津田、2020.1.12

国内会議、齋藤真里菜・宮本健太郎・村上郁也、「盲点に照射した光が通常視野の光覚閾値を上げる」、日本視覚学会、長津田、2020.1.12

国際会議、Lavrenteva, S. & Murakami, I., 「Spatial crowding distorts the perceived duration of visual stimuli」, Vision Sciences Society, オンライン、2020.6.19

国際会議、Machara, G. & Murakami, I., 「Perceived luminance contrast of stereoscopic patterns」, Vision Sciences Society, オンライン、2020.6.19

国際会議、Nakada, H. & Murakami, I., 「Interactions between different visual features in the ensemble perception of size」, Vision Sciences Society, オンライン、2020.6.19

国際会議、Nakamura, T. & Murakami, I., 「Common-onset visual masking reduces a simultaneous tilt illusion」, Vision Sciences Society, オンライン、2020.6.19

国際会議、Saito, M., Miyamoko, K. & Murakami, I., 「Spot illumination within the blind spot affects the absolute threshold for light in a normal region of the visual field」, Vision Sciences Society, オンライン、2020.6.19

国内会議、Lavrenteva, S.・村上郁也、「非文字刺激を用いたクラウドイングによる時間知覚歪みのメカニズムの検討」、日本視覚学会、オンライン、2020.9.18

国内会議、中村友哉・村上郁也、「逆向マスキングによる傾き対比の減少とその微小時間過程」、日本基礎心理学会、オンライン、2020.11.7

国内会議、Lavrenteva, S.・村上郁也、「時間的オッドボール効果における注意の役割」、日本視覚学会、オンライン、2021.1.21

国内会議、鬼頭宗平・村上郁也、「フリッカー運動残効によるフラッシュドラッグ効果」、日本視覚学会、オンライン、2021.1.22

国内会議、仲田穂子・村上郁也、「運動場への順応により生じるアスペクト比の残効」、日本視覚学会、オンライン、2021.1.22

国内会議、菅原岳・村上郁也、「視覚的レート順応の呈示位置不変性」、2021.1.22

国際会議、Yokosuka, S., Nakada, H. & Murakami, I., 「Temporal characteristics of the Craik-O' Brien-Cornsweet effect as revealed by high-speed motion correspondence」, Vision Sciences Society, オンライン、2021.5.21

国際会議、Saito, M., Nakada, H. & Murakami, I., 「Ensemble coding of temporally distributed elements eliminates irrelevant stimuli of salient size」, Vision Sciences Society, オンライン、2021.5.21

国際会議、Nakamura, T. & Murakami, I., 「Microgenesis of orientation appearance during common-onset masking」, Vision Sciences Society, オンライン、2021.5.21

国際会議、Nakada, H. & Murakami, I., 「Adaptation to an illusory aspect ratio distorted by motion patches in a deformation vector field」, Vision Sciences Society, オンライン、2021.5.21

国際会議、Murakami, I., Seshita, Y., & Kito, S., 「The flash grab effect into the blind spot」, Vision Sciences Society, オンライン、2021.5.21

国際会議、Lavrenteva, S. & Murakami, I., 「Duration compression in unrecognizable objects due to crowding as seen in general shape recognition」, Vision Sciences Society, オンライン、2021.5.21

国内会議、齋藤真里菜・宮本健太郎・村上郁也、「盲点領域のメラノプシンによって受容された光刺激が通常視野の絶対閾を上げる」、日本視覚学会、オンライン、2021.9.23

国内会議、仲田穂子・村上郁也、「局所的なサイン波運動による大域的な回転仮現運動の抑制」、日本視覚学会、オンライン、2021.9.24

国内会議、中村友哉・村上郁也、「D2 図形を用いた傾き対比の微小時間発展の追跡」、日本視覚学会、オンライン、2021.9.24

国内会議、中村友哉・村上郁也、「傾き対比現象の微小時間発展—誘導刺激への意識的アクセス可能性との関係」、日本基礎心理学会、オンライン、2021.12.5

国内会議、中村友哉・村上郁也、「位置特異的な処理促進による傾き対比の減少—内的表象と意識内容の関係」、日本視覚学会、オンライン、2022.1.19

国内会議、Lavrenteva, S.・中間卓巳・村上郁也、「運動残効により動いて知覚される静止刺激における時間伸長」、日本視覚学会、オンライン、2022.1.21

国内会議、田中真衣・中山遼平・村上郁也、「Double-drift illusion による主観的な運動軌道への方位順応」、日本視覚学会、オンライン、2022.1.21

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

非常勤講師、東京女子大学、「知覚・認知心理学 A」、2021.9～2022.3

#### (2) 学会

国内、日本視覚学会、幹事、2020.4～2022.3

国内、日本心理学会、代議員、2020.4～2022.3

国内、日本基礎心理学会、常務理事、2020.4～2020.11、編集委員長、2020.4～2020.11、編集委員、2020.11～2022.3

国際、Frontiers in Perception Science、Review Editor、2020.4～2021.3

国際、Scientific Reports、Editorial Board Member、2020.4～2021.3

国際、Vision Research、Consultative Board Member、2020.4～2022.3

#### (3) 行政

日本学術会議、科学技術政策、連携会員、2020.4～2022.3